

高松支部国語部会

高松・国分寺中 武藤泰明

1 研究主題

生きて働く力を育む国語教育 ～言葉による
見方・考え方を働かせ、深まる学び～

2 研究の概要

(1) 4月24日(水)

第1回主任研修会・研究部会

① 研究組織の編成

(2) 6月18日(火)

第2回主任研修会・研究部会

① 高松市中央図書館より

② 研究主題の確認

③ 高松支部夏季研修会の確認

(3) 7月26日(金)

高松支部夏季研修会

講演 「話し合い活動」を育てる取組

社会性と情動の学習「SEL-8S」を用いて

講演者 小泉 令三 先生

(福岡教育大学名誉教授)

話し合い活動において生徒が安心して発言できるようにするために、「聞く」姿勢を高め心理的安全性を確保することが大切である」とご講演して頂いた。SEL-8Sの学習プログラムについてワークショップ形式で行った。研修を受けた先生方からは、「話し合い活動の授業は全ての班を見ることが難しくやりにくさを感じていた。しかし『話したくなる心』『聞きたくなる心』『読みたくなる心』を土台としていくことが大切であると感じた。」や「これまでの研修は子どもの視点から考えることが多かったが、今回は教師側が注意することを学ぶことができた。」などの意見がよせられた。今後

も先生方の実践に活かせるような研修を継続的に行っていきたい。

(4) 9月20日(金)

第3回主任研修会・研究部会

① 高松支部夏季研修会について

② 国語ワークブックのアンケートより

③ 高松市教育文化祭について

3 実践事例

(1) 11月1日(金)

南ブロック研究授業

会場校 国分寺中学校

授業者 菊田 夏生教諭

指導者 一田 幸子主任指導主事

(香川県教育センター)

題材 君待つとー「万葉・古今・新古今」



(2) 単元目標

- ・ 和歌に込められた思いや歴史的背景を読み取り、和歌の世界に親しむ。
- ・ 和歌の表現を吟味することで、和歌に表れているものの見方や考え方について考える。
- ・ 和歌の魅力について主体的に考え、他者と伝え合うことを通して、自らの考えを深めようとしている。

(3) 単元計画(6時間)

- ① 古今和歌集の仮名序から、当時の人たちにとって和歌とは何かを読み取る。1時間
- ② 紀貫之の「人はいさ…」の和歌を読んで、魅力の伝え方を考える。1時間
- ③ 班で選んだ和歌の魅力を語る。2時間(本時1/2時間)

- ④ 教科書の和歌を読み、3つの和歌集の特徴が表れているところを見つける。2時間

(5) 本時のねらい

和歌に表れている作者のものの見方や考え方について、自分の知識や経験と照らし合わせて考えることで、和歌の魅力に気づくことができる。

(6) おおまかな流れ

共有課題

紀貫之の和歌の魅力を振り返ろう。

- ・ 和歌を音読する。
- ・ 前時に見つけた紀貫之の和歌の魅力を確認する。(ペア・全体)

課題の追求

- ・ 魅力を語るための視点を確認する。(時代背景、作者の生い立ち、心情面、言葉の意味、場面、自分の体験との共通点等)(ペア)

ジャンプ課題

和歌の魅力を語ろう。

- ・ グループで和歌の疑問点を付箋に書き出す。
- ・ 和歌について調べる。(タブレット、便覧、図書資料等)
- ・ どのような方法で紹介するのが良いか考える。(イラスト、紙芝居、POPづくり、物語作り等)(グループ)

まとめや振り返り

- ・ 班ごとに、どの和歌をどのように紹介するのか、どのくらい準備が進んだか等の中間報告をする。(グループ・全体)

本時は「和歌に表れているものの見方や考え方について、自分の知識や経験と照らし合わせて考えることで、和歌の魅力に気付く」ことを目標としていた。ジャンプ課題では「和歌の魅力を語ろう」と設定した。班で1つの和歌を読み解いていく活動を通して、国語が得意な生徒も新たな発見ができ、苦手な生徒は仲間とともに読み深めることで理解できていた。また、和歌やそれを紹介する方法などを自分たちで選択することで、自分たちが「やりたい」と意欲的に活動に取り組む様子がみられた。協働学習の視点で参観された先生方には、生徒の見取りをしていただいた。グループ討議では、本時の授業においては、魅力を考える視点を確認できていたこと、方法を自分で選択できたことが生徒の学ぶ意欲に繋がっているという意見もあった。一田先生からは、付けたい力を明確にすること、生徒たちにとって魅力的な言語活動の設定が学ぶ目的に繋がること、単元を通じての見通しや必然性を関連づけて行うことが大切であると指導して頂いた。

4 成果と課題

今年度から組織が新体制となった。香中研の活動の意義や目的などを、初めに共有することができた。支部の活動では、夏季研修や研究授業などの活動を行うことができた。対面で研修を行うことで、互いの実践を共有することもできた。研究授業では、生徒の見取りを通して、古典教材を主体的に取り組む生徒の姿をみることができた。教師による一斉授業ではなく、生徒同士の学び合いを通じて理解を深めることで、古典作品への理解や親しみをもつことができたといえる。課題として、共有した実践を活用したり、研究部とも連携したりすることが挙げられる。

来年度も現在の研究を継続的に行い意義のある活動にしていきたい。